

薬の豆知識



高脂血症と薬(1)

☆ 高脂血症とは？

血液中のコレステロールや中性脂肪が異常に増加してしまった状態を高脂血症といいます。食生活の欧米化や、運動不足などをはじめとする、日本人のライフスタイルの変化に伴い増えてきた病気です。そのまま放置しておくとう動脈硬化が進み、狭心症、心筋梗塞や脳梗塞になる可能性が高くなるのがこの病気の恐ろしいところです。

高脂血症には、①コレステロールのみが多いタイプ ②中性脂肪のみが多いタイプ ③両方とも多いタイプの3タイプがあります。どのタイプかによって治療も違ってきます。

コレステロールは血液に乗って全身に運ばれます。このとき、コレステロールは「リポ蛋白」という粒子となって血液中に溶け込んでいます。「リポ蛋白」にはLDL(悪玉)とHDL(善玉)があります。LDLはコレステロールを肝臓から全身に運ぶ役割をしていますが、増えすぎると血管の内側に入り込み、コレステロールを沈着させ動脈硬化を引き起こす為「悪玉コレステロール」と呼ばれています。一方、HDLは血管から余分なコレステロールを回収して、肝臓に戻す役割をしているので「善玉コレステロール」と呼ばれています。

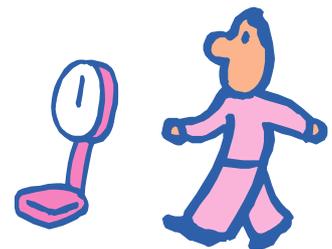
☆ どうやってみつけたらいいの？

自覚症状がない病気なので、健康診断や人間ドッグの血液検査で初めて自分が高脂血症とわかるケースがほとんどです。痛みもないのでピンとこない人もいると思います。この病気は肥満、特に内臓脂肪型肥満の人に多いことがわかっており、心当たりのある人は一度、健康診断を受ける事をお勧めします。

☆ 薬を飲む前に【生活習慣の改善】！

生活習慣改善の最優先課題は「食事」と「運動」です。

- ・ **コレステロールは控えめに**：食事を見直してください。規則正しく、バランスの取れた食事に改めましょう(肉中心から魚・野菜・豆類中心に。お酒は少量に)
- ・ **肥満は高脂血症の大敵**：適正体重を心がけましょう。
- ・ **継続できる運動**(速歩、ジョギング、水泳、サイクリングなど自分にあった方法で)
- ・ **禁煙**：喫煙は動脈硬化を促進させる危険因子です。



ライフスタイルを改善しても成果が見られない場合、内服薬が処方されます。薬物療法を始めたらからといってこれらをやめるのは絶対にいけません！きちんと続けることで薬の効果もより発揮できるのです。

✚ 高脂血症の治療薬としては現在、色々な作用でコレステロール値をさげる薬が使用されています。裏面で実際に使用されている高脂血症治療薬について説明します。

(※裏面に続きます)

薬の豆知識



高脂血症と薬（2）～当院採用品について～

分類	働き	主な副作用	当院採用薬
スタチン系	コレステロールの合成に必要な酵素の働きを妨げることにより、血中のコレステロールを低下させるお薬です。	胃腸障害、皮膚や白目が黄色くなる、しびれ、横紋筋融解症	プラバスタチン アトルバスタチン リバロ OD クレストール
フィブラート系	中性脂肪の合成を抑えたり、分解や排泄を促す薬です。HDL（善玉）コレステロールを増加させる働きもあります。	胃腸障害、皮膚や白目が黄色くなる、横紋筋融解症	リピディル ベザトールSR
陰イオン交換樹脂	胆汁酸を吸着し排泄を促進することにより、胆汁酸の成分であるコレステロールを下げる薬です。	便秘、お腹が張る、腹痛、嘔吐	コレバイン
<p>〈注意〉 コレバインは十分な量の水（200ml程度）で服用して下さい。口の中に長くとどめたり、温水で服用すると膨らんで飲めない場合があるので、水で速やかに飲み込んで下さい。</p>			
プロブコール	コレステロールの合成、排泄を促進させる事により血中のコレステロールを低下させる薬です。	胸の圧迫感、不規則な脈、しびれ、胃腸障害、横紋筋融解症	シンレスタール
ニコチン酸製剤	コレステロール、中性脂肪の排泄を促進することにより高脂血症を改善させるお薬です。	顔面紅潮、頭痛、皮膚掻痒	ユベラン
EPA製剤	魚油の主成分を製剤化したものです。主に、血中の中性脂肪を低下させる働きがあり、また血液をサラサラにする働きもあります。	出血傾向、発疹、胃腸障害	エパデルS ロトリガ (EPA/DHA 製剤)
コレステロール吸収阻害	小腸からのコレステロールの吸収を選択的かつ強力に阻害するお薬です。	便秘、腹痛、嘔吐、皮膚や白目が黄色くなる、横紋筋融解症	ゼチーア

✦「横紋筋融解症」とは？

いずれのお薬も、一般に安全性が高く副作用も少ない事が調べられています。しかし、非常にごくまれですがスタチン系やフィブラート系などのお薬で治療中に「横紋筋融解症」という副作用が起きる事があります。主な症状として、筋肉痛、筋肉の脱力感、しびれ、赤褐色の尿などがあります。このような症状を感じる事がありましたらすぐに、医師、薬剤師にご相談ください。